

GRAND CYCLE TOKYO 実行委員会（第23回）

議事要旨

日時：令和8年2月9日（月） 午前14時～14時45分

場所：都庁第一本庁舎 15階 15F 会議室及びオンライン

1. 開会

2. 報告事項

（1）レインボーライド2025・マルチスポーツ開催報告について

- ・12月7日（日）に開催したレインボーライド2025・マルチスポーツについて報告する。
- ・レインボーライド2025では約6,000名が参加。スタートセレモニーでは、都知事、港区長、江東区長に加え、Bike New York（以下、「BNY」という。）のケニス・ポッジーバ CEO にも登壇いただき、BNYと東京都、GRAND CYCLE TOKYO（以下、「GCT」という。）実行委員会等で締結したパートナーシップ協定についてPRした。
- ・エイドステーションでは、トイレの数や飲食物の充実に関し多くの意見をいただいた。来年度に向けて改善をしていきたい。
- ・マルチスポーツでは約22,000人にご来場いただき、アンケートでは、両イベント共に約8割以上の方にご満足いただいた結果となった。

（委員からの意見）

- ・海の森公園をコースに追加したことで、走り応えのある距離になった。
- ・運営が年々スムーズになっている。特にウェーブの管理が改善され、待機時間が軽減された。
- ・マルチスポーツの規模もよかった。
- ・海の森公園の魅力をより生かすような工夫が必要であると感じた。
本年度はエイドステーション等でかなり急かされた印象を受けた。

（委員からの質問）

本年度の特徴と次回に向けての課題を教えてください。

（事務局からの回答）

- ・速度管理やウェーブ管理等、安全計画は警視庁等との協議の中で工夫を積み上げ、マーシャルライダーによる速度管理等で改善してきたことで、本年度はよりスムーズに運営できた。

- ・一般道の交通規制解除の時間が決まっているため、全体の進行速度が遅れないよう再スタートを促している。今後は、急かされたという印象を持たれない工夫していかなければと考えている。
- ・VIP エリアにも特に力を入れ、飲食のサービスやソファなど設えを充実させたことで、非常に改善したという意見をいただいた。
- ・本年度の特徴として、海の森公園のコース追加が挙げられる。新たな魅力や楽しみ方を加え充実を図った。

(委員からの意見)

VIP ラウンジは非常によくなっていた。一方で、ポテンシャルパートナーへの誘因など、VIP ラウンジさらに活用していくべき。

(事務局からの回答)

ポテンシャルパートナーは、来年度の課題と考えている。委託事業者が大会後も翌年以降に向けて長期的なスポンサー獲得に向けて動くよう、委託の仕様書に反映する方向。VIP ラウンジなども十分活用しながら、スポンサー獲得に取り組んでいきたい。

(2) 事業最適化部会の最終まとめについて

- ・本年度より「事業最適化部会」を設置し、GCT 事業の課題や協賛の獲得戦略などを含め、今後の GCT 事業の方向性等を検討してきた。この度、部会の『最終まとめ』が整理されたので、説明する。

3つのポイントについて

- ・1つ目、両大会の開催のあり方、都民支持について
 - 両大会の相乗効果の観点から、ロードレースの周回コースの設定や両大会の連携開催の可能性の検討が必要。
 - 長距離の交通規制による地元負担について検討が必要。
- ・2つ目、収入増・新たな価値創造について
 - GCT 事業のブランディングとして、両大会を同時に推進するのは現時点では困難であることから、レインボーライドを主体としたブランディングの推進を行う。
 - BNY や UCI など海外連携の推進によるブランド価値向上の好循環の可能性。
 - 多摩ロードレースについては、スポンサー露出が少なく、一層の工夫が必要。
- ・3つ目、費用対効果について
 - ロードレースの周回コースの活用やコースの固定化による費用削減の検討が必要。
 - 安全対策費については、安全面を第一に考えたうえで引き続き経費を精査。

- 両大会の運営方法・費用の効率化を検討。

事業最適化部会の『最終まとめ』を受け、2027年度に開催する多摩ロードレースについては、コースを見直すとともに、国内外の大会との連携推進により、GCTブランドの価値を高めるため、2026年度に他大会との連携可能性調査を実施していく予定。

また、速やかに着手できるものについては、次年度の契約の仕様に反映するなど、見直しを進めていくとともに、中長期的な課題については、事務局にて引き継ぎ、検討のうえ、実現につなげる。

(委員からの意見)

今後とも両大会を効率的に運営していけるとよい。

(事務局からの回答)

ロードレースの見直し、他大会との連携開催、海外連携等について来年度以降、具体化していきたい。

(委員からの質問)

一番の課題はロードレースのコースについての地域における理解と費用という認識でよいか。課題解決のために想定している変更があれば教えてほしい。

(事務局からの回答)

いくつか課題があるが、多摩ロードレースにおける地域負荷と費用は課題であり、見直しを進めていく。また、スポンサー獲得のため両大会を一体としたブランディングを図っていきたい。事業最適化部会の各専門分野からの意見・助言を、今後の事業の改善に生かしていく。

3. 審議事項

(1) 令和8年度事業計画及び収支予算計画について

令和8年度の実行委員会の事業計画及び収支予算計画の事務局案を作成した。

① 事業計画について

レインボーライド・マルチスポーツ、THE ROAD RACE TOKYOに加えて、事業最適化部会からもご意見をいただいた「他大会との連携」についても取り組む。

レインボーライド・マルチスポーツについては、11月のイベント実施に向けて業務に

取り組む。

THE ROAD RACE TOKYO については、次回大会開催が令和 9 年度を予定しているので、開催に向けた準備に取り組んでいる。

他大会との連携については、昨年協定を締結した Bike New York との連携に向けた調整や、この後契約案件で説明する調査等を実施する。その他、HP や SNS 運営を始めとする広報業務やイベント実施に向けた各所との調整業務を行うとともに、事務局の運営についても適切に行う。

②収支予算計画について

収入の部

東京都の負担金	762,200 千円
事業収入	80,000 千円
合計	842,200 千円

支出の部

レインボーライド・マルチスポーツの経費	722,200 千円
THE ROAD RACE TOKYO の準備経費	100,000 千円
他大会との連携に係る経費	20,000 千円
合計	842,200 千円

(委員からの質問)

レインボーライドの支出の大きな部分を 3 つほど教えていただきたい。

(事務局からの回答)

レインボーライド総額は 7 億 2 千 2 百万円。うち、本体契約は約 6.5 億円で、基本的にレインボーライドの計画策定等運営全般に係る経費、安全対策・ライドに係る経費、マルチスポーツ・広報に係る経費の 3 つに分かれている。その他、首都高関連経費が約 6 千万円、事務局経費が約 1 千万円となっている。

【審議事項（1）について全員異議なし】

(2) 東京都との協定について

令和8年度の実行委員会と東京都の事業共催協定について、GRAND CYCLE TOKYO 事業執行のため、例年締結している。協定の期間は令和8年4月1日から令和9年3月31日の1年間。実行委員会と都の業務分担は、実行委員会が各事業の実務を担い、都が経費負担や国、都庁内、各機関との調整を行うこととしている。

本協定における都の負担金上限額は先程の予算計画にもあるが、7億6,220万円となっている。

(委員からの質問)

実行委員会に監事はあるのか。

(事務局からの回答)

経理課長など監事が二人いる。

(委員からの意見)

監事は外部から招聘した方がよいのではないかと。

(事務局からの回答)

契約締結前や支出前には公認会計士に見ていただくなどの対応を行っている。一方、全体的な予算や決算など、外部委員の視点は重要であり、また、スポーツにおけるガバナンスの確保という観点からも、貴重なご指摘なので、事務局で検討していきたい。

【審議事項(2)について全員異議なし】

(3) 令和8年度準備契約予定案件について

令和8年度準備契約については、3件を予定している。

1 「レインボーライド 2026・マルチスポーツイベント実施計画策定支援及び運営委託」について

・開催概要

日時：11月23日を予定

参加人数：今後関係者との調整を踏まえて6,000名から7,000名の間で募集したいと考えている。マルチスポーツは約20,000人の来場を見込んでいる。

コース：基本的に本年度と同様、一部若洲海浜公園内の工事進捗による影響を踏まえたコー

ス設定とする予定。

来年度の重点取組ポイント

- ① エイドステーションを充実させることによる参加者満足度の向上
- ② インバウンド獲得に向けた多言語対応の強化や海外 PR
- ③ 日本国内の機運醸成に加え、海外からの参加者を増やすため、BNY での PR ブース出展も実施予定

・仕様書

基本的な構成・内容は本年度と同様。参加者・来場者アンケートなどから課題点等を抽出し改善できるよう反映している。

来年度の重点取組ポイントを反映した内容としている。

入札については、令和7年度同様に総合評価方式を採用。

技術審査委員会を設置して採点、評価を行う。

2 「他大会との連携に係る調査委託」について

- ・ これまで GRAND CYCLE TOKYO 事業として、令和6年度に UCI バイクシティラベルを取得し、今年度は BNY とパートナーシップ協定を締結するなどの取組を行ってきた。
- ・ 事業最適化部会において、「海外連携の推進によるブランド価値向上」、「他の国内大会との連携によるすそ野拡大」等のご意見を踏まえ、GCT ブランドの更なる価値向上のため、今後の具体的な施策検討をしたいと考えている。
- ・ 施策の検討に当たり、他大会との連携に係る調査委託を実施するため、本契約を締結する。具体的な委託内容は、国内外の大会に関する基本情報や運営組織、財務状況やスポンサー獲得状況等についての調査である。また調査内容を元に、今後他大会と連携を検討する際に、どのような枠組みで連携を図っていくべきか、制度設計や財務運営、協賛獲得方法などの詳細について、検討を行う内容となっている。

3 「法律相談業務委託」について

- ・ 例年発注しているもので、事業執行の際に必要な法律的な裏付けについて弁護士に相談するものになる。

(委員からの意見)

他大会との連携に係る調査委託については、成果の報告と KPI チェック付きで仕様発注すべき。

(事務局からの回答)

現在、仕様書を作成しているところだが、成果の報告等を記載するなど、適切に対応できるようにしていく。

【審議事項（3）について全員異議なし】

その他

今後の実行委員会のスケジュールについて、3月下旬に令和8年度に向けた会則等諸規程の改定などの内容を予定している（書面開催予定）。

4. 閉会